

こども園における自己評価結果報告書

こども園における令和4年度自己評価の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。  
自己評価の結果を踏まえ、今後の教育保育の質の向上並びに、こども園運営の質の向上に努めて参ります。

【教育保育の理念や目標の理解】

《取り組み状況及び課題》

1, 教育保育目標の充実	教育目標に基づいた園の運営としては、仏教保育を念頭に置いて花まつりやみたままつりなど、お釈迦様の由来を分かりやすく園児に話をしよう進めている。今後は誕生会等で前理事長が園児に伝えてきたブッタの教えを取り入れていきたい。
2, 保育・教育課程の編成	異年齢保育の充実と発達段階を踏まえた教育保育を土台とし、職員全体で研修や勉強する意欲を持ち、園児の最大の学びとなる経験や体験ができるよう努めている。
3, 教育保育の計画及び評価	例年通り、全体的な計画を作成し、教育課程に基づいて、3歳以上児の異年齢でまとめた指導計画、他のクラスでも年齢に応じた指導計画を立てて教育保育の実践し、ミーティングや書面にて反省を出し合い、今後の課題を話し合って進めている。前年度の2歳児はコロナ禍で移行が難しく、年度はじめにトイトレが完了していない園児が多く、環境に慣れることに時間を要したため、今年度は移行期を例年通りに行うようにし改善することに努めた。 園庭あそびを始めるのが例年より遅かった。4月になって土が乾いてきたら遊び方を確認し合い早い時期から園庭あそびを取り入れていく。

【子どもの発達援助】

1, 発達と援助	マスク着用が当たり前となったコロナ禍の保育を見直すと、マスクで口元が見えない事で、園児への話かけが伝わりにくい事や、0歳児では園児の笑顔が減ったなど子どもの育ちに関わる重大な問題であることを振り返るきっかけとなった。今後は感染状況を踏まえながら、できるだけマスクを外して保育にあたるよう心がけていく。
2, 特別支援教育	特別な配慮が必要な園児が安心して生活をする事ができるよう、職員間で共通理解を持って対応している。園児の様子を見取ることによって状況に応じた支援方法を話し合うチーム保育の体制を強化し、その子に合った手段を見つけ、無理なく全体の活動やあそびに入れるように経過をみている。 また、気軽に話し合える職員の関係性を築いていけるように今度も続けていく。

	<p>保育所等訪問支援において、支援員より助言を頂くことで、より効果的な支援につながり集団生活の中で成長が見られている。</p>
<p>3, 教育保育内容</p>	<p>園児のさまざまな体験や経験が育ちにつながり、応答的に関わることで会話する力、コミュニケーション能力が育つよう、遊びを通してやり取りを心がけている。未満児と以上児の交流はほとんどなく、コロナが落ち着いた頃に年長児のお手伝い保育などを取り入れることができた。だが、すぐにインフルも流行したため、1年を通して交流の場が少なかった。異年齢交流は今後の課題となる。ホールに全体で集まるような集会や誕生会も、分散し対策を取らなければならない状況もあった為、致し方ない。</p>
<p>4, 健康（保健） および安全 （食育） （感染症）</p>	<p>少人数での給食配置やパーテーションを使用するなど、対面での食事対策を検討し実施してきた。その他、家庭から持参している個人の手拭きタオルやおしぼりを、ペーパータオルや口拭きウェットにするなど、ウイルスが他へ付着することを防いだ。園児のマスク着用に関しては、政府の意向を踏まえ個人（家庭）で判断して頂き、マスクの強要がないように職員全体で共通理解を持ち対応する。</p> <p>感染症予防のため、加湿器や次亜塩素酸水を活用する。次亜塩素を希釈した液を使用し、遊具・手すりやドアノブ等の消毒を定時に行い、感染拡大を最小限に抑えられるよう努力してる。感染症が発生した場合や休園再開等に関わる内容はお知らせ配信と掲示にて速やかに保護者に知らせている。</p>
<p>（アレルギー）</p>	<p>アレルギー疾患児に関しては、5月末に乳製品除去が解除になった園児1名。新たに2月より、魚卵アレルギーでアナフィラキシーの経験がある園児に除去食提供を開始する。除去しなければならない食材をあやまって食べることはないように、必ず保育教諭が側に着き十分に配慮している。</p>
<p>（事故予防）</p>	<p>年度の前半期には、かみつきの衝突、ひっかきが数件あったが、大きい事故はなく過ごせた。ヒヤリハットに関しては、その都度インシデント報告を行い、今後の対策を考える。事故防止委員で報告をまとめる等、同じような事故やケガが続かないよう職員間で周知し、活動時に気をつけて保育にあたるよう心がけている。</p> <p>全国の報道であったような事例を通して、不適切な関わりのないように、一人ひとりが意識して園児に対する言葉がけや強要のないよう考えるきっかけとなった。また、アイギスの危機管理研修がZoomで行われたため、研修に参加した常勤職員は一緒に学ぶ機会が持てた。今後も事例をあげながら、正しい関わり方で接するよう今まで以上に心がけていく。</p>

【保護者・地域との連携・保護者対応と情報発信】

<p>1, 保護者に対する支援</p>	<p>コロナ休園の影響と感染状況により、予定していた個人面談が中止とせざるを得なかった。クラス懇談もここ3年中止が続き、アンケートにより子どもに関する内容を聞き取り、クラスの号外としてお便りを出し、クラスの様子を伝えた。未満児においては、普段の連絡帳で担任とのやり取りや登園降園時に話す機会を持つようにしてきたが、保護者の方とじっくり話しあう場面は少なかった。</p>
<p>2, 子育て支援</p>	<p>園見学を受け入れの際に、園内の紹介や入所希望の聞き取りをしながら子どもに関する相談、集団生活の中ではぐくむ力や育ちを話しながら対応している。</p>
<p>3, 保護者への情報提供ならびに、小学校との連携</p>	<p>園内に入れられない状況の中、子どもの様子や活動を見る機会が少ないため、行事 DVD への動画の組み込みやホームページにて、写真の掲載を増やし、フォトコーナーの充実を図った。できるだけその日のうちに作成し随時更新に努めた。手紙やお知らせに関しては、おがスマ配信を活用する等、情報提供を迅速に進める。行事のみならず普段の様子が見たいとの声や、おがスマを最大限に利用してアプリで手軽に確認できるよう方法を考えていく。</p> <p>小学校との連携事業は、コロナ禍で難しく、コロナ前のような形には未だ至っていない。</p> <p>地域との連携に関しては、町内の緑地除草作業に積極的に参加。また、成道会お遊戯会を東公民館で実施、運動会も東体育館で行うなど近隣の施設を利用し地域に根付いた行事計画として進めている。</p>

【職員の資質向上】

<p>1, 研修 (資質向上の取り組み)</p>	<p>コロナ禍で Zoom が主な研修の形となったが、昨年より研修件数と内容が増え学べる機会は多かった。短時間保育教諭でも年1回以上の研修を行うことができた。休園等の現状により報告できる場の設定は難しく、書面を見通す形となった。今後は報告できる場を設けていく。</p>
<p>2, 意欲・態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の計画をしっかりと把握し、時間がなく雑になることのないよう、丁寧に取り組めるよう心がけた。園児への最善の方法は何かを常に考え、その場しのぎにはならないように努力した。</li> <li>・自ら話しかけてこない園児にも目を向け、関わる時間を持ち、更に園児の性格や特性を理解し関わっていききたい。</li> <li>・家庭での様子を理解し保護者や園児にもっと寄り添っていききたい。</li> <li>・チーム保育を大切に、ミーティングをして共通理解を深め、異年齢保育(見守る保育)について話し合えるようにしている。</li> </ul>

#### 【今後取り組むべき課題】

- ・先輩保育教諭から受けたアドバイスを身に着け、研修で得た知識を保育に活かしていきたい。
- ・保護者と話し合える機会を増やす。(個人面談、クラス懇談の実施)
- ・フリー参観の趣旨を今一度改め直し、検討する。コロナ禍で中止していた保育参加や親子参加の行事を取り入れられるよう考えていく。(行事等の見直し含む)
- ・未満児、以上児が交流の機会が増えるよう考慮していく。  
職員同士が声をかけ合い保育体制が整うよう、風通しを良くして、話し合って進める。
- ・マスク着用で過ごしてきた保育を今いちど振り返り、園児の育ちに着目し、今後の課題を見出し、来年度はマスクを外して保育にあたれるようにする。
- ・保育環境の見直しをしながら、発達段階にあった玩具の提供と園児同士が関りを深められる日常の中であそびを保證できる環境を整えていく。
- ・園での生活の様子について連絡帳や掲示、ホームページを通して、情報提供し保護者との相互理解を図るようにする。
- ・おがスマを最大限に活用し、アプリ内で手紙内容の確認やお知らせがいつでも見られるようデータ添付を行い、自然環境を考慮して用紙削減を目指す。